

20) 第二十日目 納沙布岬～厚岸

H19年7月7日(土) 快晴

・昨日のイメージとは全く違って、道の駅「スワン44ねむる」はなかなか良い宿泊地だった。  
あさ起きて見たら周りに10台余の車が泊まっていた。同じようなことをやっているおじや老夫婦が結構いるものだ。会話も弾む。

・朝食後海岸に造ってある散歩道をほんの短い道だが歩いてみる。  
少し雲があるが天気はよい。



春国岱原生野鳥公園



風連湖の夜明け

・道の駅を出て海岸線を東へ、納沙布岬を目指して快走。  
道は良いし車はいないし天気はいいし、最高だ。

・駅を出てすぐ 風連湖の東端に位置する春国岱に寄る。  
朝早いし白鳥も居ないし、ちょっと歩いただけ。

・次に北方原生花園に寄る。花は殆どないが広々とした湿原に木道が走りなかなか良い。

ポニーが放牧されていてこれも絵になる。  
ただポニーが木道のうえに上がってきて道を塞いだり、糞をしたりで、木道の上も糞だらけ。これもご愛嬌か。



北方原生花園

・とうとう日本の最東端・納沙布岬に来た！



日本の最東端・納沙布岬



納沙布岬

・納沙布岬に来てみてロシア領の近さを実感し唖然。  
来て見なければわからない。なにしろ歯舞諸島の近いこと！  
貝殻灯台(島?)なんて 3.7kmしか離れていない。  
その中間点が国境ということになり 2kmにも満たないと言うことになる。なんたること！  
これはどう見ても日本の領土だ！

・いたるところに「領土返還」のプラカードが立っており、その意味・気持ちが良くわかる。

・今日は天気がいいので、水晶島の海岸線に監視棟が林立しているのがよく見える。さらに奥には 国後島がかすんで横たわって見える。なんとデカイ島か！知床岳、羅臼山などの山並が続くのが見える。



間近に見える貝殻灯台



花咲ガニのてっぽう汁

・名物花崎蟹のテっぽウ汁に舌鼓を打って(500円) 納沙布岬を後にする。

・今日の目的地厚岸に向けて半島の南岸の海岸線を西へ走る。道の両側全てが公園のような景観で草原あり、湿原あり、湖あり、広大な畑あり、馬あり、牛ありで全てが感動の道だ。何しろ天気が良い。

・途中で目にした「長節湖」という看板の名に惹かれて道に入り、静かな湖畔で昼食をとる。

・半島を出て霧多布岬に向かう。ここもまた美しい。途中の霧多布湿原にはボウフウが一面に満開、岬の断崖にはエゾカンゾウが満開で黄色の絨毯。太平洋の荒波に映えて輝いている。



静かな長節湖で昼食



霧多布岬



霧多布灯台



・霧多布で日帰り温泉「ゆうゆ」(500円)を見つけ、当然ここに寄り、久しぶりで真水で体を洗うことが出来た。(このところ上がり湯もない浸かるだけの硫黄温泉ばかりだった)

・さっぱりして少し走ると「あやめが原」なる看板を見つけ寄ることに。  
これはすごい！ 見渡す限り一面にあやめが咲いている。  
紫の絨毯だ。  
ただ蚋がめちゃくちゃ多くて閉口した。



紫の絨毯の「あやめが原」



道の駅・グルメレストラン「コンキリエ」

・道の駅「厚岸グルメパーク」は想像通りの駅、一度は来てみてもいいところ。  
温泉は無いが(霧多布で入浴してきて良かった)広い駐車場に厚岸湾を見下ろす展望グルメレストランを二つも備えた立派な建物。

・今回の旅ではこのグルメレストランを狙ってきた。  
厚岸と言えば「厚岸牡蠣」、生牡蠣、焼き牡蠣に花咲蟹に釜飯、それに生ビールとお酒2合、久しぶりの豪遊で足をふらつかせながら車に戻り就寝。すっかりいい気持ちで寝たためその後の記憶は全くない。

\* 今日と明日は土日の週末、厚岸の夏祭りと言うことで、町中山車や神輿がでて賑やかだ。食事中駐車場に山車が居座り、レストランの中にまで獅子舞が入ってきて驚いた。



生牡蠣に舌鼓

[北方原生花園で色々な花が見られた]  
・カキツバタ ・ミヤマキンポウゲ その他